

シンポジウム挨拶

農林蚕試岡谷所長 岡 村 源 一

蚕試式織度感知器の国有特許権使用並に製作販売等に関する許諾を国から一様に受けている自動繰糸機メーカー3社の最高技術責任者御本人から、3社夫々の特長及び最新のエキスの御講演を願い幸甚至極であり、大変得るところがあったのである。

従来の座繰機多条繰糸機による製糸工務は人力を主体とした労務管理式の技術研究であったのが、自動繰糸機導入後に於ける製糸工務は専ら機械学を主体とした技術研究に移行せねばならないのであって、全くその機械の最高性能をいかにして発揮せしめ又維持するかが絶対条件である。製糸技術者にとって新らしく科学的に研究せねばならない幾多の課題が生れたのである。幸に本日は3社から最高責任者の方が御出席願っておるから、此の機会に、当面最も重要であり又緊急とする自動繰糸機による製糸工務に関する技術研究座談会を開催することにしたので成果を収める様に充分なる御協力を切望する次第である。

自動繰糸機による製糸工務技術と云っても頗る広範に亘るので一応、自動繰糸機による製糸工務と蚕品種、乾繭、煮繭、繰糸、揚返、生糸整理、品質管理等に分類して順次研究を進めるのが好都合と考える。そして能率的且つ効果的にする為に信大の林教授に座長を御願ひして進行することにした。成果の如何は会員諸兄の協力如何であるから活潑に討論されたい。以上シンポジウム開会の挨拶とする。